

新たなベイエリアなどでの
大規模開発

平松市長!

大問題

エッ!
バス事業への
市の補助金
この低さ

国民苦しめた自公政権と同じ予算づくり

保育所の整備予算を16億円カットし学校維持運営費は13億円減らすなど子育て・教育予算を切りこむ一方で、WTC破綻の1000億円もの損害を市民に押し付け、大型開発では咲洲の「活性化」と称して57億円を投入します。

関西財界の言いなりか!

市長は提案した「2010年度予算案」を、「地域力の復興」「未来への投資」と位置づけ胸を張りますが、大阪湾岸開発(左の図をご覧ください)などに税金投入し、市民がもつめる市民サービスと市民を支える職員を切り捨てる内容です。これは、民主党政権が誕生しても、従来の関西財界言いなり、橋下知事と二人三脚の大規模開発路線そのものです。

そして「市政改革マニフェスト」の目標を超過達成したうえに、「事務事業の総点検」(大阪市版事業仕分け)で経常経費にも手をつけ大幅削減しようとしています。民間委託や職員を減らすやり方は、市長の「安全・安心の持続可能な都市づくり」に全く逆行するもので、貧困と格差を拡大した自公政権そのものです。

市民生活ささえる予算に

「貧困都市への転落」という本が売られています。本当に、そうなることだけは避けたいですね。でも、大阪市は生活保護支給が全国水準の2倍、年収200万円以下の人が四人に一人です。

大阪市議会(2月26日~3月25日)が始まっています。市長は貧困都市・大阪を、どう抜け出すことができるか問われています。市の予算は、国民がダメとした自公政権路線そのものではありませんか。市長!大規模開発でなく、市民の暮らしの立て直しに大切な税金を振り向けるべきです。

これはヒドイ

市民サービス切り捨て項目

- 保育所整備費(▼15.6億円)
- 学校維持運営費(▼12.7億円)
- 児童就学援助費(▼1.8億円)
- 市民病院分娩料(4万円値上げ)
- 小学校給食の民間委託の推進



市民の声と運動で実現しました。

- ①赤バス廃止が「判断を先送り」に
- ②敬老優待パスを引き続き無料
- ③上下水道料金減免が継続された
- ④地下鉄の可動式ホーム柵が設置に
(今里筋線は開業設置、その他の路線は順次設置)



関西財界の意向をうけ、新たな大規模開発、関西州をめざす橋下知事。それに追従する平松市長。WTCへの府庁移転を目玉に再びベイエリア開発が大企業のための交通インフラに福祉や市民サービスを削った税金が投入されようとしています。

他都市のバス事業決算状況と運営費補助額(2008年度)

バス事業	2008年度 一般会計 (A)	バス事業費 への 運営費補助金 (B)	運営費補助 比率($\frac{B}{A}$)
大阪市	15,551	17	0.11%
仙台市	4,110	28	0.68%
名古屋市	10,421	50	0.48%
京都市	7,714	29	0.38%
神戸市	7,162	17	0.24%

(単位:億円 千万円以下は四捨五入)